

中小企業等への経営支援の取り組み (中小企業経営支援分科会 説明資料)

平成29年4月13日
株式会社静岡銀行
(全国地方銀行協会)



静岡銀行

拠点数	204（静岡県内172、県外27、海外5）
貸出金	7兆6,636億円
預金	9兆23億円
自己資本比率	15.09%

※ 主要勘定は平成28年3月31日現在、拠点数は平成28年7月1日現在

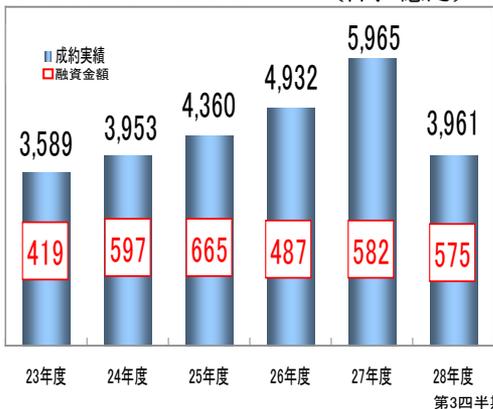
地域密着型金融への取組み

- ビジスマッチング、経営改善・事業再生支援、次世代経営者塾「Shizuginship」を3つの柱とした地域密着型金融の展開により、取引先とのリレーションを強化

ビジスマッチング

- 販路拡大などを通じた取引先企業の業容拡大支援

【成約件数の推移】 (件、億円)

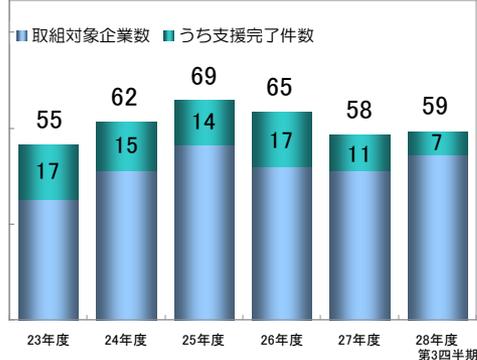


- 平成18年2月から農林水産業者、食品加工業者と仕入企業との商談会「しずぎん@gricom」を定期的開催
- ものづくり系ビジスマッチング業者のリンカーズ株式会社と新たに業務提携

経営改善・事業再生支援

- 事業再生計画の作成や外部機関との連携、事業再生ファンドなどの活用により再生を支援

【取組実績の推移】 (件)



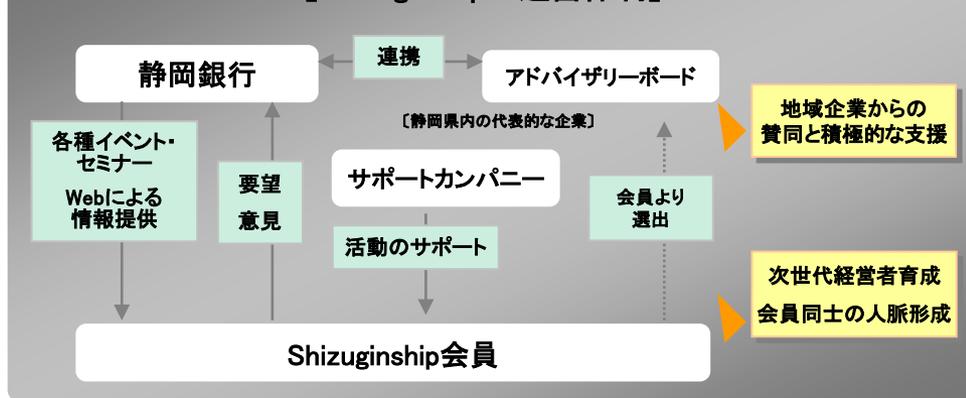
- 平成17年度以降の取組みで約190社の「事業再生」を完了

地域雇用約17千人を確保し、地域経済の活力を維持

次世代経営者塾「Shizuginship」

- 次世代を担う若手経営者の経営資質向上を支援し、当該企業ならびに静岡県経済の発展に貢献することを目的とした会員制サービス
- 平成19年4月に発足し、会員に研鑽と交流の「場」を提供
- 静岡県を代表する企業がサポートカンパニーとして参画、運営面では、講師派遣や視察受入等、地域一体となった後継者育成に取り組んでいる

【Shizuginshipの運営体制】



【会員数】平成28年12月末／796社、1,188名
 【平成28年度第3四半期の活動実績】 (会員参加人数のべ1,154人)

内容	開催実績
セミナー (著名な経営者や専門家による講演会)	10回
ゼミナール (テーマ別に連続開催する講座)	全28回
・エグゼクティブプログラム	2回
・ミドルマネジメントプログラム	12回
・ベーシックプログラム	14回

地域密着型金融への取組み ～成長分野、業態転換支援等～

- 医療・介護を中心とした成長分野では、各分野に専門人材を配置して取組みを強化
(28年度第3四半期 成長分野融資実績1,160億円)

成長・未開拓分野への取組み

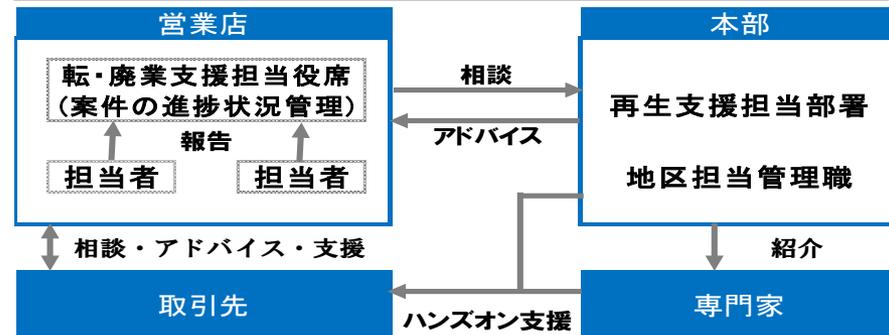
28年度第3四半期
融資実績 ※

医療・介護	<ul style="list-style-type: none"> ◆「医療経営士」や「介護福祉経営士」の資格を持つ専任者6名を配置 ◆開業支援や介護分野への参入支援 	965件 588億円
環境	<ul style="list-style-type: none"> ◆省エネ設備の導入支援による資金需要の創造 ◆再生可能エネルギー関連の設備投資支援 	192件 226億円
農業	<ul style="list-style-type: none"> ◆静岡県の産物をバイヤーに紹介する『しずぎん@gricom』を定期的で開催 ◆「農業経営アドバイザー」14名を配置 	228件 139億円
事業承継	<ul style="list-style-type: none"> ◆次世代経営者塾「Shizuginship」による後継者育成支援 ◆株式移転からM&Aまで幅広く事業承継を支援 (28年度第3四半期M&A成約実績：17件) 	176件 207億円
		【合計】 1,561件 1,160億円

※融資実績の件数・金額は長期資金のみ計上

業態転換・廃業支援

- 転・廃業支援は地域経済の安定化に資すると判断し、支援体制を整備
- 【本部】**
- ・地区担当管理職が営業店からの相談および支援要請に対応
 - ・支援要請については、専門家を活用したハンズオン支援を実施
- 【営業店】**
- ・転・廃業支援担当役席を任命(旧:金融円滑化担当役席)
 - ・転・廃業支援案件の進捗状況等を確認
 - ・本部のアドバイス等に基づき、営業店担当者に適切な指示・フォロー



[平成28年度第3四半期までの累計実績]

取組み件数67件

完了件数27件(うち転業支援完了8件、廃業支援完了19件)

創業・新事業進出支援への取組み

「しずぎん起業家大賞」

- ・計4回実施：応募559先から27先を表彰
- ・平成27年度(第4回)は、創業準備段階から創業5年未満の先を対象とした「起業家部門」を新設して実施
- ・過去の受賞先27先への金融支援実績
新規融資：61件/1,338百万円 投資：7件/159百万円

補助金への取組み

「ものづくり補助金」

- ・3年連続で民間金融機関トップの採択件数
(金融機関全体としては商工中金に次ぐ2位)
- ・直近の平成27年度補正予算1次募集、2次募集
採択件数合計105件

「経営革新支援」

- ・経営革新計画承認件数 51件

認定支援機関としての取組み事例

- 土間コンクリート余剰水除去ロボット開発に挑む建設会社A社
(経営革新計画取得支援、ものづくり補助金採択支援)

建設業界を取巻く労働力問題

「高齢化や若年就労者数の低下が進む建設業界」

- ・建設業は、55歳以上の就業者が全体の3割を超えるなど、高齢化が進行している。
- ・また、業務には身体的な負荷や危険が伴うため29歳以下の若年就労者離れも進み、技術の承継も課題になっている。
- ・今後、深刻な労働力不足が生じることが懸念されている。

A社における課題と対策

「土間コンクリート余剰水除去ロボットの開発」

- ・A社は、土間コンクリート施工時の余剰水除去が、熟練工の手作業に依存し、冬季作業など身体への負担も大きな点を課題として抱えていた。
- ・省力化を目的に社内検討組織を立上げ、地元大学等との同施工ロボットの研究を進め、開発には一定の目途が立った。
- ・将来の量産化を目指し、コンクリート表面の水分測定器、ロボットの实用機開発が求められ、当行への助言が求められた。

取組み済

取組み中

社内組織立上げ

大学との共同開発

水分測定器開発

実用ロボット開発

ロボット販売

認定支援機関としてのサポート内容

A社の目標	サポート内容
水分測定器開発	経営革新計画認定支援
実用ロボット開発	ものづくり補助金採択支援

「水分測定器開発」

- ・水分測定器は、コンクリート表面の水分量を測る機器であり、ロボットの投入タイミングを図る上で必須。
- ・同測定機器の性能は、ロボット操作者の利便性を向上させ、結果としてコンクリートの仕上がりを左右する。
- ・認定支援機関として当行は、販売時における製品品質としての客観性や、知財保護等が必要と判断。
- ・これらの対応として、経営革新計画申請に必要な支援を実施。

「実用ロボット開発」

- ・研究段階では開発の目途が立ったものの、実用段階に向けては多くの課題が生じていた。
- ・具体的には、走行性能向上、車体重量の軽量化、バッテリーの容量拡大、メンテナンス性の向上等。
- ・これらの課題を解決し、製品化まで結び付けるには多額の開発費負担が見込まれる状況にあった。
- ・当行は、ロボット開発は建設業界として新しい取組みであり、ものづくり補助金の大义に叶っている挑戦と判断し、同補助金の採択に向け支援。

「その他の支援」

- ・地域活性化補助金の申請支援等。

1. 制度見直しに対する要望事項

○変更届出等に係る事務負担の軽減・簡素化について

- ・ 支援業務窓口の変更（店舗移転・追加・廃止）の届出
- ・ 代表者以外の役員、担当者変更の届出
- ・ 基本方針に基づく支援業務の実施状況や成果に関するアンケート調査

} 廃止も含めて必要性の見直し

2. 認定支援機関の更新制の導入に対する意見

○認定支援機関の更新制の導入について

以下の理由から、金融機関は対象外として頂きたい

- ・ 銀行業は監督官庁の免許事業として、監督官庁の検査・モニタリング等を受けている
- ・ 中小企業支援は金融機関の本業であり、支援実績・経験が豊富にある

○仮に金融機関に対しても更新制が適用される場合について

- ・ ディスクローチャー誌等の提出による更新や、実務的な研修の受講免除など、金融機関の活動実態を踏まえ、各金融機関の負担が生じないように配慮して頂きたい